



2015年3月 おかげさまで
創業40周年を迎えます

2015年3月期 第2四半期 決算説明会資料

2014年11月14日



パンチ工業株式会社

(証券コード:6165 東証第一部)

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

本日の内容

1. 経営環境
2. 2015年3月期 第2四半期決算概況
3. 2015年3月期 業績予想
4. 中期経営計画
「バリュークリエーション15」の進捗
5. 参考資料



2015年3月 おかげさまで
創業40周年を迎えます

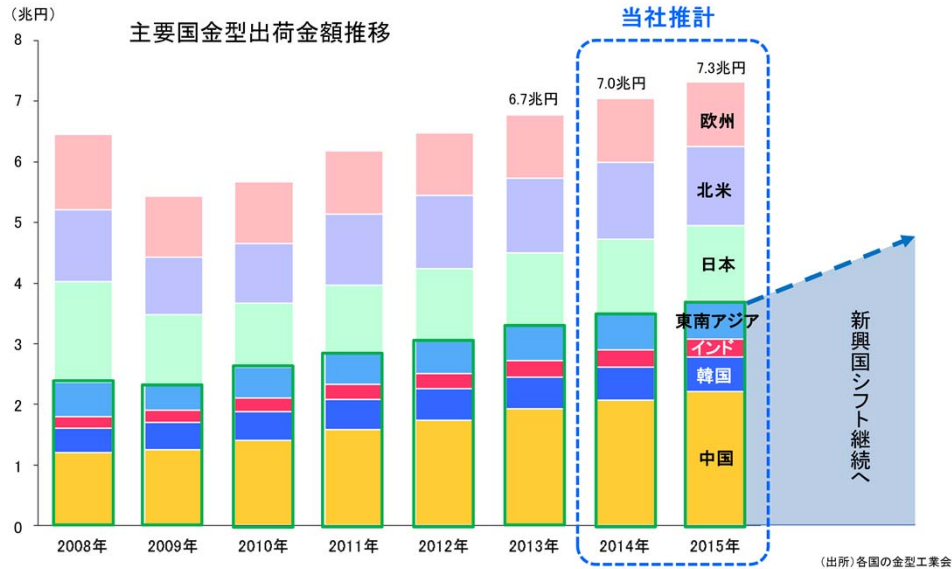
1. 経営環境

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

▶ 経営環境についてです。

金型市場の予想(金額)

リーマンショック直後をボトムに着実に回復。緩やかながらも成長基調。



▶ 先ず、世界の金型市場の動向です。

□各国の金型市場規模は 2009年にリーマンショックで大きく落込んだものの、その後、中国を中心とした新興国が牽引車となって着実に回復しました。

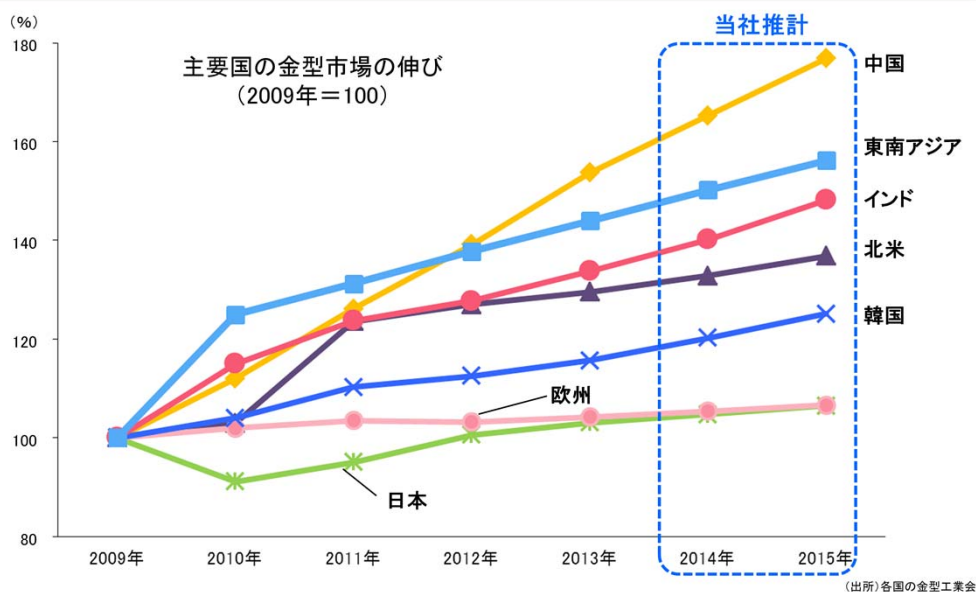
□今後も成長基調が見込まれ、当社推計では、2015年には7.3兆円規模を想定しています。

□金型部品の市場規模としては、金型市場規模の約7%レベルと
考えておりますので、
終了した2013年で、4,700億円
2015年で、5,000億円超
の規模と見ています。

□金型市場も、金型部品市場も着実に右肩上がりという認識です。

金型市場の予想(成長性)

金型需要は成熟市場から新興国市場(中国・インド・東南アジア)へシフト。



▶こちらは、リーマンショック後の2009年を100とした、各国の金型市場の伸びを示したものです。

□日本、欧州などの成熟国は横ばい或いは緩やかな成長をしています。

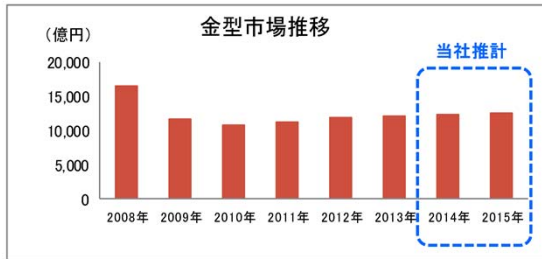
□一方、中国、インドといった新興国は大きく伸長しています。

□即ち、金型需要は成熟市場から新興国市場にシフトしており、ここでの事業拡大が大きな課題となっています。

□成熟国ながらも北米については、自動車を中心に伸びている点も注目しています。

□このような経営環境も踏まえ、当社グループが事業を行っております、日本、中国、そして東南アジア・インドについて、それぞれの状況をご説明します。

国内市場



円安定着で輸出産業が堅調。
好調な電子部品・半導体に加え、
自動車も堅調に推移。
設備投資需要の回復で
産業機械は大幅増。

顧客業界 動向	自動車	消費税率見直しによる反動減はあったものの、国内生産は前年同期比増。
	電子部品	中国を中心とした新興国向けスマホが好調。
	その他	産業機械は、国内外の幅広い業種で設備投資が回復し、円安定着で輸出が伸長。
課題	医療関連、食品・飲料関連など新分野への積極的な取り組み。	

▶先ずは、国内です。

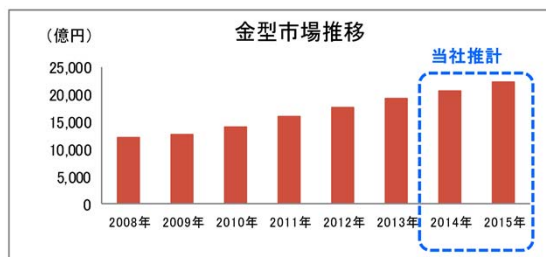
□金型市場規模としては1.2兆円で微増傾向と見ています。

□お客様のトレンドは下記の3つであり、このニーズに的確に応えていく為、従来にも増して、微細加工技術や高精度技術のレベルアップが大きな課題であると認識しています。

- ①超精密、超小型といった高付加価値製品
- ②競争力あるコスト
- ③短納期

□金型の主要用途は、自動車、電子部品、家電等の分野ですが、これらのお客様に加え、医療関連や飲料・食品関連等の当社にとって新しい分野についても、技術力のレベルアップと同期させて積極的に取り組んでいきます。

中国市場



住宅・不動産の低迷や過剰生産力の調整はあったものの、好調な自動車に加え、スマホ需要に牽引された電子部品・半導体が大幅増。家電・精密機器も堅調に推移。

顧客業界動向	自動車	2Q累計の自動車生産台数は1,178万台と前年比9.6%増で好調を維持。
	電子部品	低価格モデルのスマホが市場を牽引。
	その他	家電、精密機器も堅調。
課題	戦略製品や医療関連など高付加価値製品への取組み。	

▶次に中国です。

□足元で、中国の経済成長の先行きを懸念する声はあるものの、巨大市場が数パーセントは成長しています。

□現在、当社が力を入れて取り組んでいる重慶を中心とした内陸部においては、二桁成長が続いており、今後もまだまだ期待できる市場と認識しています。

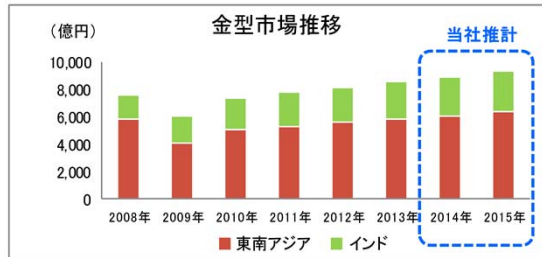
□工業力の象徴であり、金型需要を大きく左右する自動車の生産も好調に推移しています。

□金型市場も1割成長をしており、その市場規模は2014年には2兆円レベルに達し世界第一位の市場規模となっています。

□日中技術交流等により、これまで培ってきた技術力を活かした高付加価値製品の創造と、新市場開拓戦略を両輪に、競争力を更に強化し、事業基盤をより強固なものにしていくことが大きな課題であると考えています。

□その為にも、日本同様、技術力のレベルアップが必須です。

東南アジア・インド市場



【東南アジア】インドネシア、ベトナム、マレーシア、フィリピンなどが牽引し、全体で5%の成長を維持。

【インド】通貨も安定し、成長率も5%超と回復基調へ。

顧客業界 動向	自動車	北米向けが堅調を維持。
	電子部品	低価格のスマホやタブレットの需要旺盛で好調。
	その他	医療、食品に期待。
課題	事業拡大と成長市場でのポジションの確立。	

▶最後に東南アジア・インドです。

□東南アジアについては、国によって様々な産業集積が形成されています。各国のニーズを的確に捉え、東南アジアにおけるポジションを確立することが課題であると認識しています。

□インドについては、自動車産業の更なる発展に伴い、金型市場も集積が進むと考えています。当社としては、この流れをしっかりとつかみ、更に売上を拡大していくことが課題であると認識しています。



2015年3月 おかげさまで
創業40周年を迎えます

2. 2015年3月期 第2四半期 決算概況

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

▶続いて、第2四半期の決算概況についてです。

第2四半期 決算ハイライト

第2四半期に入り、国内市場がややスローになってきたものの、中国が堅調に推移したことに加え、東南アジアグループの新規連結もあり、増収増益を確保。

売上	連結	連結売上高は、前年同期比120%、28億円増収の163億円となった。
	日本	好調な電子部品・半導体に加え、自動車や家電・精密機器も堅調に推移。産業機械の復調もあり、前年同期比増となった。
	中国	好調な自動車に加え、電子部品・半導体や家電・精密機器などが堅調。戦略製品も二桁増となり、前年同期を大きく上回った。
	その他	東南アジアグループの新規連結による東南アジア、欧州での売上拡大で大幅増となった。
利益		売上増に加え、工場稼働アップによる原価率の低減及び単体収益体質改革活動の成果もあり、営業利益は前年同期比5.3億円増の9.5億円となった。同時に、経常利益、四半期純利益も前年同期を大きく上回った。
ネット資金		四半期純利益が大幅に増えたため、期首より3.7億円改善した。

▶2015年3月期 第2四半期の決算ハイライトです。

□国内は、第2四半期に入り、第1四半期のペースからはややスローになってきたものの、中国が堅調に推移したことに加え、東南アジアグループの新規連結もあり、増収増益を確保しました。

□全般的に、自動車や電子部品等々、幅広い業種で受注が増加し、良い結果に繋がりました。

□資金については、四半期純利益の計上により、期首から3.7億円の改善となりました。

第2四半期 決算概況

売上高及び各段階利益ともに前年同期実績をクリアし、引き続き堅調に推移。

(単位:百万円)

	2014年3月期 第2四半期累計 実績		2015年3月期 第2四半期累計					
			修正予想 (8/8公表)		実績		前年同期差 (前年同期比)	修正予想差 (修正予想比)
売上高	13,575		16,548		16,350		2,775 (120.4%)	▲197 (98.8%)
営業利益	3.1%	419	5.1%	841	5.8%	950	531 (226.7%)	109 (113.0%)
経常利益	2.4%	329	4.4%	727	5.2%	851	521 (258.2%)	124 (117.1%)
四半期純利益	1.2%	167	3.4%	562	3.9%	644	477 (385.6%)	82 (114.6%)

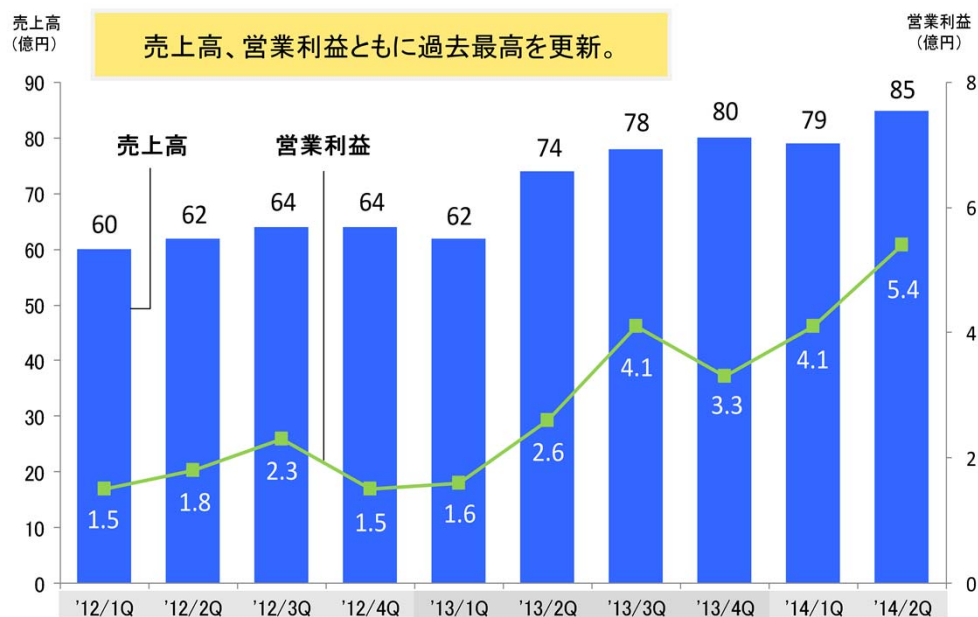
▶決算数値の概要です。

□売上高は163億円で、前年同期比120%、28億円の増収となりました。

□当第2四半期は、国内販売が非常に好調であった第1四半期から、ややスローダウンしたこともあり、前回8月8日に公表した予想数値からは若干下振れしました。

□利益面では、費用の時期ずれ等もあり、想定以上の利益を確保することができ、営業利益は9.5億円、経常利益は8.5億円、当期純利益は6.4億円となりました。いずれも前年同期を大きく上回る結果となりました。

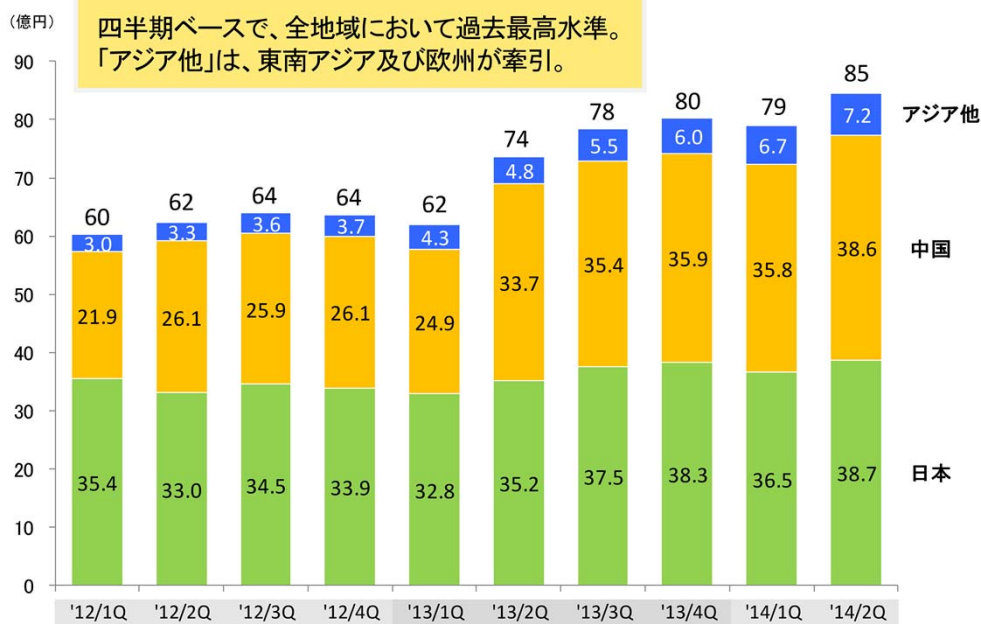
売上高と営業利益の推移



▶2013年3月期からの四半期ベースの売上高と営業利益の推移です。

□各地域において、幅広い業種で堅調に推移したことにより、
四半期のみで見ますと、この第2四半期は、ここ数年において、
売上高、営業利益ともに最高水準となりました。

地域別売上高



▶地域別の売上高です。

□第2四半期は、各地域において、それぞれでここ数年の、最高水準となりました。

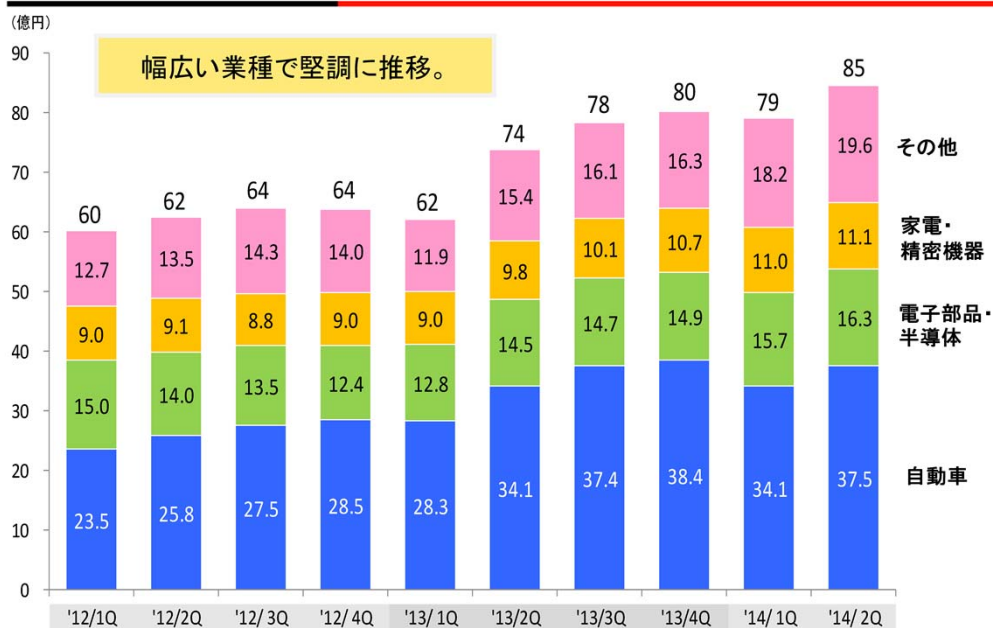
□東南アジアグループが誕生してから、1年が経過いたしました。

当社の製販一体、製造直販という強みが、

日本→中国→東南アジアへと着実に広がっており、

第2四半期についても、「アジア他」が大きく伸長しています。

業種別売上高

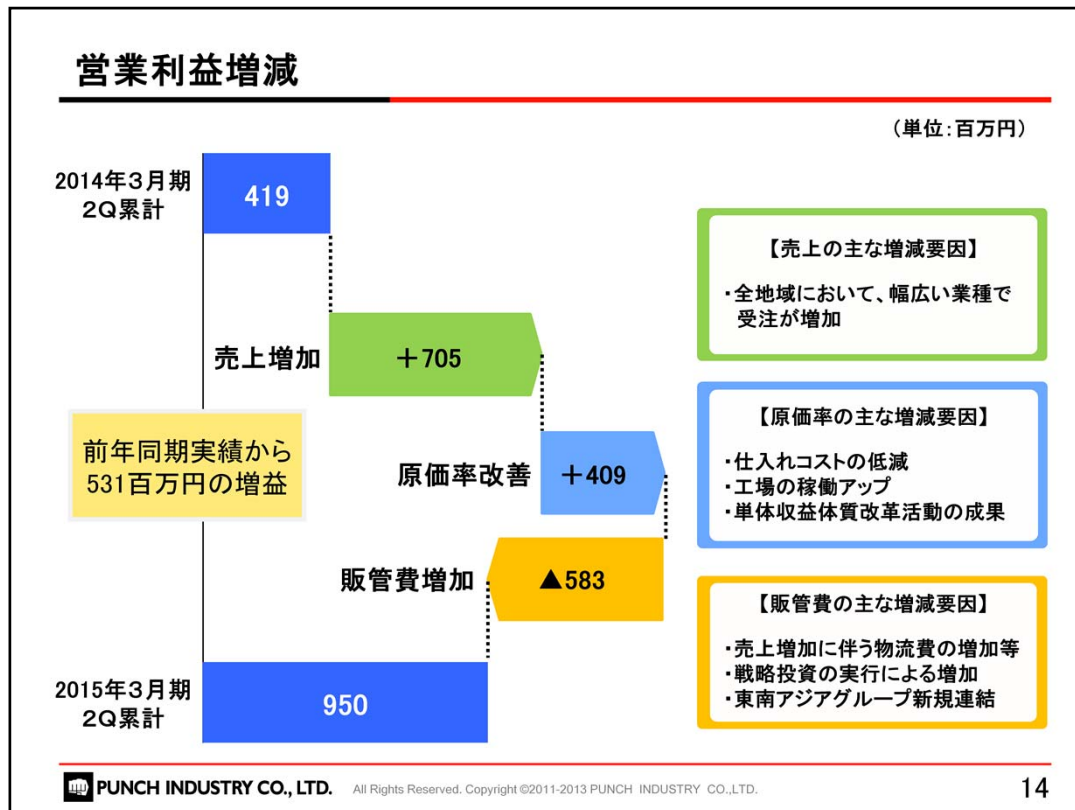


(業種別売上高のグラフは、業種区分見直しに伴い遡及修正をしております。)

▶業種別売上高のグラフです。

□日中ともに、自動車、電子部品・半導体、家電・精密機器が堅調に推移しました。

□加えて、国内の食品・飲料関連等の好調や
中国の戦略製品の販売拡大もあり、
新分野である「その他」は引き続き伸長しています。



▶営業利益の増減グラフです。

□前年同期実績の4.1億円から、
 売上高の増加に伴う利益増の7億円に加え、
 仕入コスト低減及び国内工場の稼働の向上や、
 単体収益体質改革活動の成果もあり、原価率の改善で4億円。

□一方、東南アジアグループの新規連結や、成長加速のための戦略投資を強化し、
 一部は前倒しで実行したこと等により、販管費は5.8億円増加。

□結果的に、当第2四半期の営業利益は、
 前年同期に対し5.3億円増の9.5億円となりました。

財務状況

(単位:百万円)

	2014年3月期末	2015年3月期 第2四半期末	比較増減
総資産	24,471	24,883	412
総負債	15,108	15,338	229
うち有利子負債	7,743	7,735	▲8
純資産	9,362	9,545	182
ネット資金	▲6,216	▲5,845	370
自己資本比率	38.2%	38.3%	0.1ポイント

	2014年3月期 第2四半期累計	2015年3月期 第2四半期累計	比較増減
設備投資額(無形固定資産含む)	330	575	244
減価償却費(無形固定資産含む)	524	618	94

▶財務状況です。

□総資産は、主としては現金及び預金の増加により、4.1億円の増加となりました。

□総負債は、主としては支払債務の増加により、2.2億円の増加となりました。

□純資産は、主としては当期純利益の計上等により、1.8億円の増加となりました。

□設備投資は、設備投資を一部前倒して実行し、高収益事業体質への転換を目指した取組みを更に強化しました。



2015年3月 おかげさまで
創業40周年を迎えます

3. 2015年3月期 業績予想

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

▶続いて、2015年3月期の業績予想です。

2015年3月期 業績及び配当の予想

(単位:百万円)

	2014年3月期 実績		2015年3月期 修正予想(8/8公表)		前年差	前年比
売上高	29,436		32,819		3,382	111.5%
営業利益	3.9%	1,161	4.9%	1,619	457	139.4%
経常利益	3.6%	1,047	4.4%	1,439	391	137.4%
当期純利益	2.4%	720	3.2%	1,039	318	144.2%
自己資本利益率 (ROE)	9.6%		10.8%		1.2ポイント	

2015年3月期
配当

中間配当金10円を実施

年間配当金20円を予定

▶2015年3月期 業績及び配当の予想です。

□第2四半期に入り、国内販売が第1四半期のペースからはややスローになってきたものの、中国が堅調に推移したことに加え、東南アジアグループの新規連結もあり、第2四半期累計期間としては増収増益を確保しました。

□第3四半期、第4四半期については、各国の景気動向等の見極めが非常に難しい中、中期経営計画の達成に向けた戦略投資等にも取組むため、2015年3月期の業績予想を据え置きとしました。

□配当は、10円の間配当を実施し、年間配当は20円を予定しておりますが、安定的な配当を継続していくことを基本に考えております。

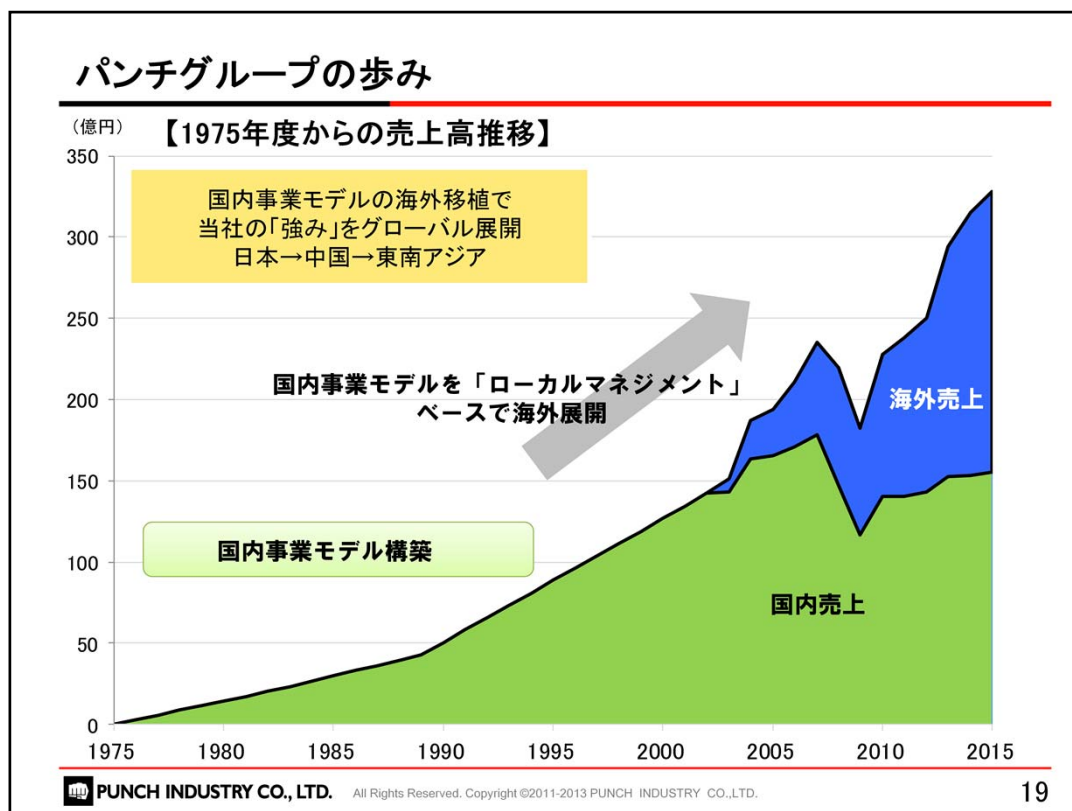


2015年3月 おかげさまで
創業40周年を迎えます

4. 中期経営計画 「バリュークリエーション15」の進捗

 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

▶続いて「バリュークリエーション15」の進捗状況です。



▶グループ連結売上高の推移グラフです。

(※過去の数値は概算ですので、イメージ的にご覧下さい。)

□ITバブル崩壊やリーマンショックでの一時的落込みはあったものの、
基調としては、国内での事業基盤をベースに、中国での事業拡大を加え、
着実に事業規模を拡大してきました。

□2012年12月の株式上場を機に、パンチグループとしての新たなステージに
向けた成長戦略を推進すべく、2015年度を最終年度とする3か年の
中期経営計画「バリュークリエーション15」を策定しました。

□現在パンチグループ一丸となって取組んでおり、まさに、折返し地点を
回ったところです。

□国内売上に、海外(主に中国、更にはインド、東南アジア、欧米等)を加え、
グローバルに事業展開を進めていくことが、「バリュークリエーション15」
の骨子です。

中期経営計画「バリュークリエーション15」の基本戦略

3つの「対処すべき課題」に「攻め(成長戦略)」と「守り(体制・体質改革)」で取組む！

	日本	中国	東南アジア他
① グローバル化	■ 戦略本社 グローバル事業本部新設		
	■ 米州戦略		■ 欧州戦略
② 新市場の開拓	■ マーケティング ・医療関連 ・食品/飲料関連 ・金属光造形技術	■ 内陸部市場攻略	■ 東南アジア新体制のフルスイング ・マレーシアを製販のコア拠点とした事業基盤確立 ・インドネシア合併事業の早期立ち上げ ■ インド ・自動車の深耕と家電攻略
	■ R&D ・研究開発本部	■ 戦略製品拡販	■ 超硬事業拡大

▶ その「バリュークリエーション15」の基本戦略です。

□ ー昨年から掲げている3つの「対処すべき課題」に、「攻め」と「攻め」を支援する「守り」の両面から積極的に取組んでいく、というのが根本の考え方です。

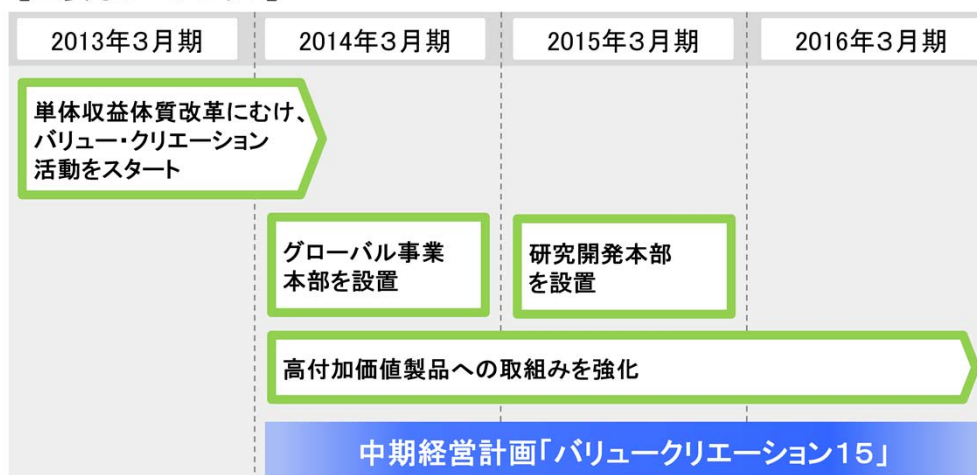
攻め ⇒ ・グローバル視点でのマーケティング戦略

守り ⇒ ・グローバルマネジメント体制及び研究開発体制の強化
・収益体質改革活動

地域別の進捗①日本

当社、中国グループ&東南アジアグループをコアにグローバルマーケティング推進と日中連携で研究開発体制強化。

【主要なプロジェクト】



▶3つの課題への取組み状況について地域別にご説明します。先ず、日本です。

□一昨年より、バリュー・クリエーション活動をスタートさせ、改革活動を草の根運動的に推進し、原価低減等のみならず、風土改革にも取り組んでいます。

□併せて、高付加価値事業への転換を促進すべく、二つの取組みを進めています。

①昨年11月、グローバル事業本部を設置

→マーケティング機能の一極集中管理を進めています。

②4月に研究開発本部を設置

→日本が主体的に研究開発体制を統括し、日中連携での開発体制を強化。これに伴い、開発面での設備投資の前倒しや新規投資にも積極的に取り組めます。

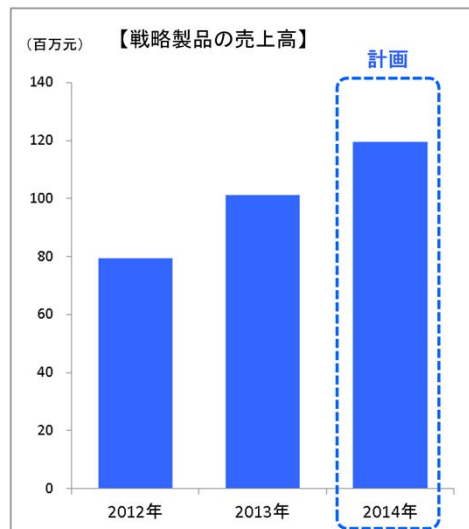
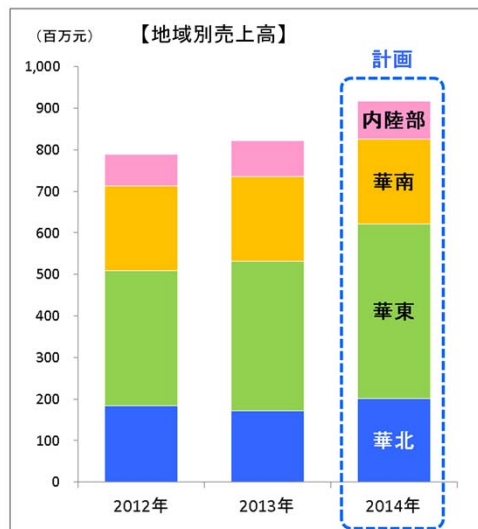
地域別の進捗②中国

内陸部攻略

重慶での生産・物流拠点の拡充に加え、販売体制も更に強化し、成長市場へ積極的に展開。

戦略製品拡販

研究開発成果である戦略製品拡販で収益性改善と投資回収。



▶中国です。

□重慶工場は、昨年5月にスタートした後、順調に稼働が向上しています。

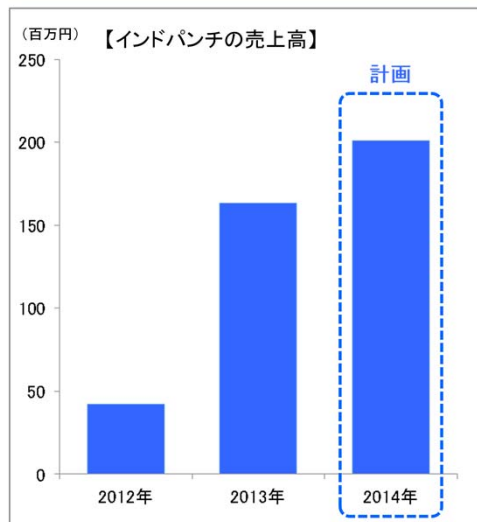
□内陸部は戦略的に取組んでいる成長市場ということもあり、同工場の体制拡充や、7月には湖南省の長沙市に営業所を開設するなど、事業展開や販売体制の強化に積極的に取組んでいます。

□一方、戦略製品の拡販も、引き続き想定を上回るペースで進んでいます。ラインアップも拡充し、収益性の改善に寄与し始めており、「高収益事業モデルへの転換」に一步一步着実に近づいています。

地域別の進捗③インド・東南アジア他

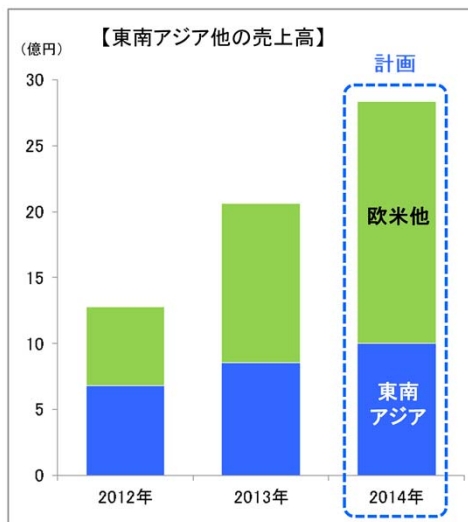
インドパンチ

戦略的に営業人員を配置し、自動車関連の深耕に加え、家電・電子部品分野等の受注活動を強化。



東南アジア他

各国別に現地で最適な販売体制を構築。



▶インド・東南アジア他です。

□インドについては、広い国ですので、最適人員配置も考えながら、自動車をベースに、家電・電子部品等も含め受注活動を強化しています。足元やや市場全般低調という感もありますが、まだまだこれからの市場ですのでじっくりと取組んでいきます。

□また、経済成長のポテンシャルの高い東南アジア市場での早期の事業基盤の確立は重要課題です。

この4月には、

- ①昨年設立したインドネシア合弁販売会社の営業をスタートさせ、
 - ②ベトナム販売会社のハノイ事務所を新設するなど、
- 受注拡大に取り組んでいます。

□一方、中国及びマレーシアからの欧州向け輸出も好調に推移しています。5月にはドイツ、9月にはイギリスにおいて新たな代理店契約も締結しました。今後も、各地で最適な販売体制の構築を進めていきます。

本日はありがとうございました。

IRに関するお問い合わせ先

パンチ工業株式会社 総務部コーポレート課
電話: 03-5460-8237 e-mail: info-corp@punch.co.jp



将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

- ▶ 最後ですが、中期経営計画の折り返し地点を回ったところですので、最終年度である「2015年度営業利益20億円」という目標に向けて、グループを上げて取組んでいきます。



2015年3月 おかげさまで
創業40周年を迎えます

5. 参考資料

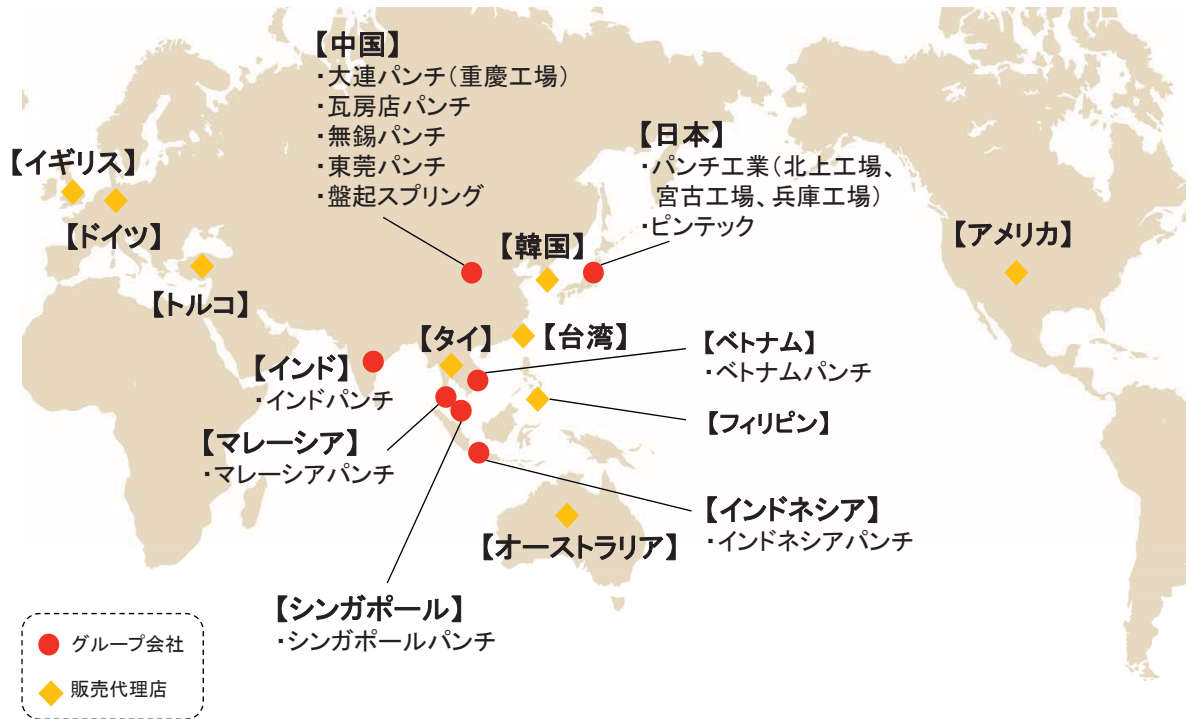
 PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

会社概要

会社名	パンチ工業株式会社
本社所在地	東京都港区港南二丁目12番23号
設立	1975年3月
資本金	15億7,154万円
従業員数	3,757名(グループ連結、2014年9月末現在)
生産拠点	北上工場(岩手県北上市) 宮古工場(岩手県宮古市) 兵庫工場(兵庫県加西市)
グループ会社	株式会社ピンテック(山形市) 盤起工業(大連)有限公司(中国) 盤起工業(瓦房店)有限公司(中国) 盤起工業(無錫)有限公司(中国) 盤起工業(東莞)有限公司(中国) 盤起弹簧(大連)有限公司(中国) PUNCH INDUSTRY INDIA PVT. LTD.(インド) PUNCH INDUSTRY MALAYSIA SDN. BHD.(マレーシア・ペナン) PANTHER PRECISION TOOLS (KL) SDN. BHD.(マレーシア・クアラルンプール)※ PUNCH INDUSTRY SINGAPORE PTE. LTD.(シンガポール) PUNCH INDUSTRY VIETNAM CO. LTD.(ベトナム) PT. PUNCH INDUSTRY INDONESIA(インドネシア)

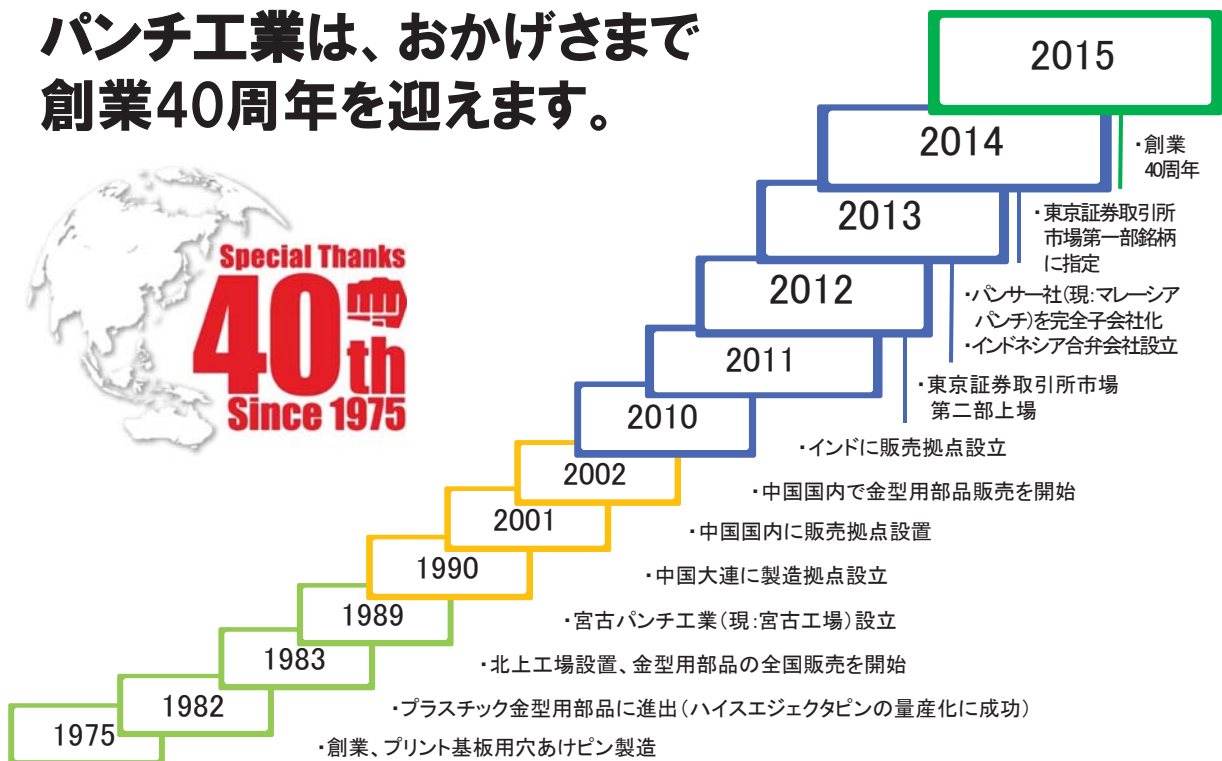
※PANTHER PRECISION TOOLS (KL) SDN. BHD. は、PUNCH INDUSTRY MALAYSIA SDN. BHD.に事業を移管したため、清算手続中であります。

パンチグループのネットワーク



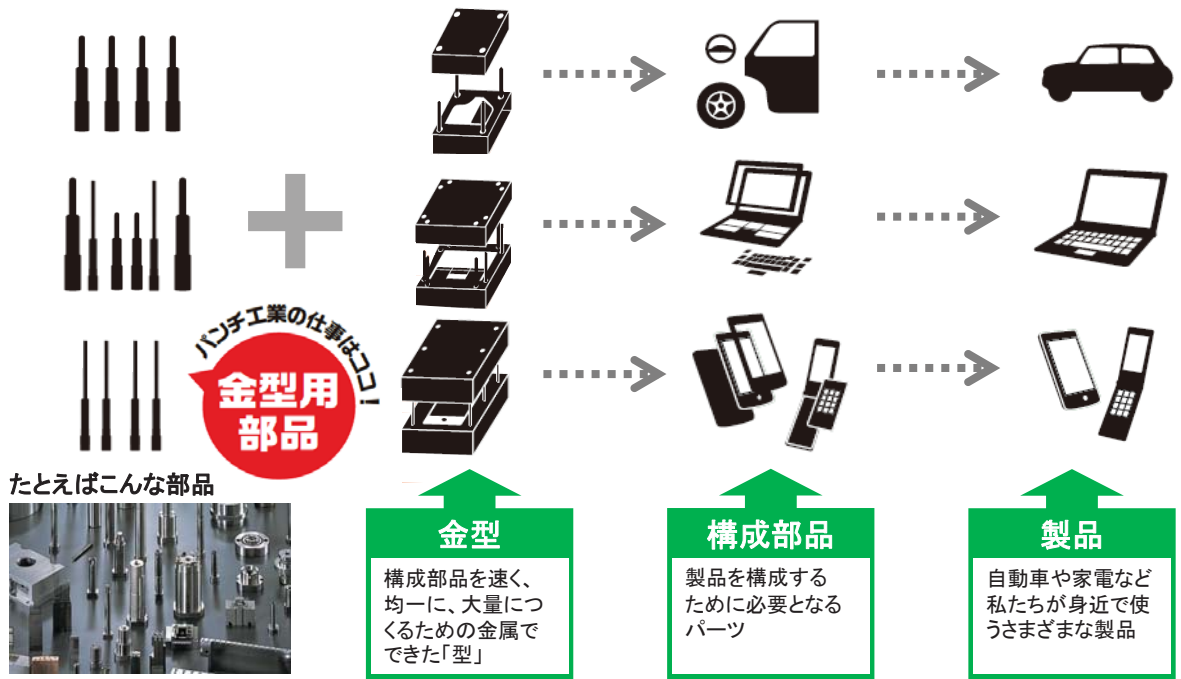
沿革

パンチ工業は、おかげさまで創業40周年を迎えます。



事業内容

金型を構成するために、なくてはならない多種多様な精密部品の製造・販売



プラスチック金型と金型用部品

●プラスチック金型用部品について

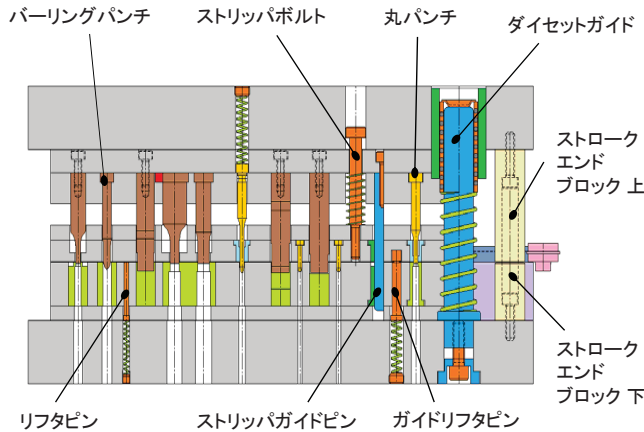
プラスチック金型とは、携帯電話やデジタルカメラの外装など、多くのプラスチック製品の製造に用いられる金型であり、加熱溶融したプラスチック樹脂を、射出成型機に実装された金型に注入し、冷却、固化することにより製品が作られております。

当社グループでは、広範なプラスチック製品の射出成型用金型に組み込まれるエジェクタピン、スプルーブシュ等のプラスチック金型用部品の製造・販売を行っております。

エジェクタピン・・・ 成型品を金型から離し、突き出すための部品

スプルーブシュ・・・ 射出成型機の射出ノズルから溶融したプラスチックを金型へ流し込むための部品

プレス金型と金型用部品



●プレス金型用部品について

プレス金型は、プレス機(上下運動する機械)に金型を装着し、上下に分かれた金型の間に入れた材料(金属の鋼板)を入れ、プレス機を稼働することにより、金型で型どられた製品が出来上がります。


当社グループでは、自動車、家電、精密機器などを大量生産するために必要な、プレス加工で使用される金属の鋼板を打ち抜く際に使用するパンチ・ダイ部品、金型の上下の動きを保持するガイド部品等のプレス金型用部品の製造・販売を行っております。

- パンチ..... パンチは材料に押しつけて使われる工具で、通常はダイと対で使われ、材料に穴をあけたり、形状を転写する部品
- ダイセットガイド... 上型と下型の関係を正しく保つために使用する部品



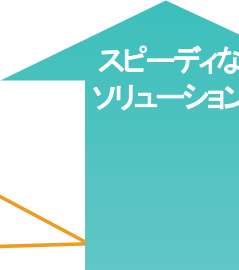
パンチグループの強み

お客様に高い満足度を提供




カタログ品

汎用性の高い標準製品を豊富にラインナップ



スピーディなソリューション



特注品

カスタムニーズにも柔軟に対応

一気通貫の生産体制
1,700台の設備で幅広い対応力

お客様密着型の営業体制
きめ細かな対応・提案力

高い技術力
創業以来培ったノウハウとたゆまぬ研究開発



CSR経営と企業ビジョン

CSR経営

世界のものづくりを支える企業であり続けるために
CSR経営を実行しています。

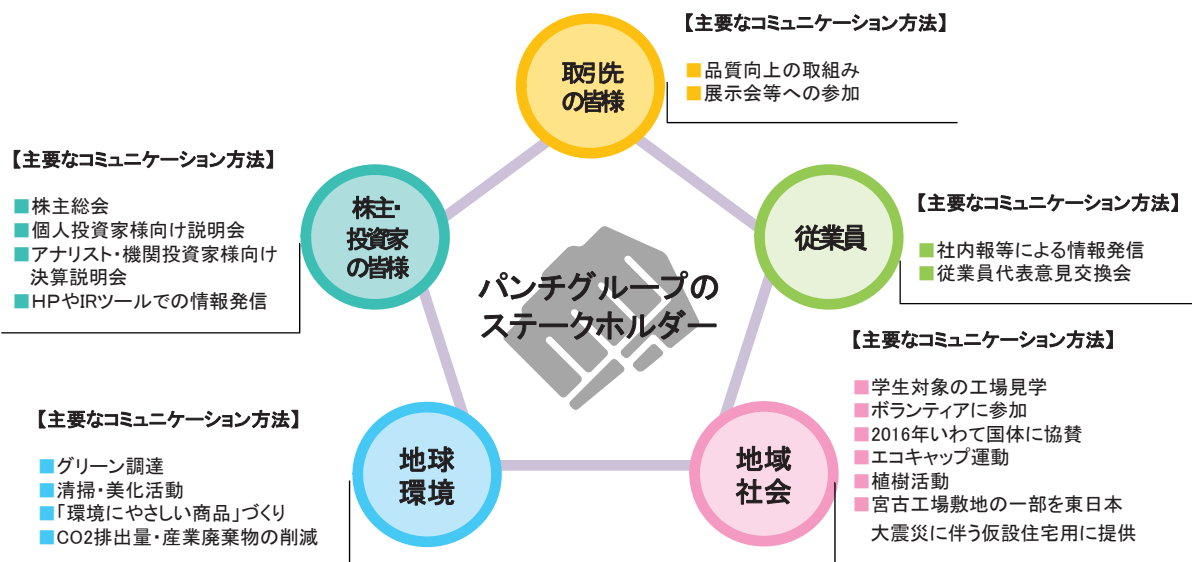
企業ビジョン



世界のパンチへ

金型部品業界での
トップブランドを確立し
製販一体企業としての
優位性を活かした
高収益企業を目指す

ステークホルダーとのコミュニケーション



決算説明会の様子



個人投資家様向け会社説明会の様子



植樹活動の様子



エコキャップ運動



【環境にやさしい】マーク